

館の共通目標	開館5年目の節目を迎え、利用者をさらに拡充し、芸術にしか創り出せない深い経験を地域に深く浸透させていくことを目指す。	
細事業別目標【展覧会】	中核的なパブリックアート事業となる岡本太郎作品を広く知ってもらう展覧会と、実績ある美術館との連携事業によって発信と専門性を高める。	
展覧会名称	群馬の歴史をひもとく:アーツ前橋所蔵作品から(仮)	横浜美術館コレクション展 昭和の肖像—写真でたどる「昭和」のひとと歴史
会期・日数	2018/6/14—2018/9/18 /84	2018/7/6—2017/9/3 /52
場所	ギャラリー1	地下ギャラリー
学芸担当者	忠	今井
記入/修正日	2018/3/23	2018/3/27
【目的・目標】 ・何をやりたいか。 ・ビジョン、波及効果	アーツ前橋所蔵の写真作品を中心に、群馬や前橋の地域文化に根ざした作品を紹介し、作家や作品を身近に感じられる機会を作る。 アーツ前橋所蔵品収蔵品を紹介する機会を設け、来場者の満足度を向上させる。	他館(横浜美術館)との連携を軸に他館のコレクションを利用した新しい形の企画展を目指す。横浜美術館の展示ノウハウの取得や人的交流を進める。 地域に存在する中高年層の写真ファンをターゲットに集客を努め、当館の収蔵品には少ない、写真という芸術を楽しむ機会を創出する。
【②内容・活動】 事業の概要	石内都、木暮伸也といった、現在群馬を拠点に制作している写真家・美術家のほか、地域に根づく文化を取り入れた制作行為を前橋市の所蔵作品を通して紹介する。	横浜美術館が開催した「昭和の肖像—写真でたどる昭和のひとと歴史」展をベースに、アーツ前橋のギャラリーに合わせた展示を共同企画する。
主な取り組み【手段】 ・広報戦略 ・新たな試み	1.作家研究に基づいた展示構成。 2.鑑賞補助資料の作成(キャプション、配布物) 3.横浜美術館写真コレクションとの関連性をもった企画構成	1.他館との学芸レベルでの情報交換と協力関係の構築 2.国内コレクションの豊かさを紹介 3.来館者層の拡大
【③結果】数値目標		
入場・参加者数	6,000人	5,000人
展覧会満足度	85%(満足+やや H25:83.8%、H26:78.5%、H27:81.6%、H28:82.7%) 65%(満足のみ H25:40.5%、H26:45.7%、H27:56.7%、H28:61.2%)	
【④成果】 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	ターゲット: 近隣住民、市外の実験愛好者 ・コレクションへの理解が深まる ・前橋に関わってきた近・現代作家を知る機会 ・気軽に美術に親しめる場としてのイメージの定着	ターゲット: 県内、美術(特に写真)愛好家 ・新たな観客の獲得 ・美術館機能の高さのアピール ・収蔵作品活用の見直し ・長期的視点の美術館連携の可能性
特記事項 ・助成 ・委員会形式 ・巡回展		

■備考 定員設定の無いイベントは含まない

群馬の歴史をひもとく：アーツ前橋所蔵作品から（仮）

● 概要

本展では、地域固有の歴史を題材として制作する作家たちの試みを紹介します。繊維産業をはじめ、群馬の辿ってきた歴史と文化は、現在の街並みや人々の生活を形作っています。地域の歴史を振り返ることは、わたしたちがいま立っている場所がどのような場所なのかを体感する手がかりとなるでしょう。

ここに紹介する作家たちは、地域固有の歴史や文化に目を向け、題材としています。遠い親族の写真を通して養蚕文化の現在に目を向けた木暮信也の作品、出生地である桐生の絹産業を扱う石内都の作品にみるように、ごく個人的なエピソードや記憶がそれを紐解くカギとなります。それぞれの作家によって紐解かれ、解釈された歴史にアクセスすることで、私たち自身の記憶や、忘れ去っていた物語も再び立ち上がってきます。

今回、アーツ前橋が所蔵する写真作品を中心に、約 20 点の作品をご紹介します。

- 会期：2018 年 6 月 14 日(金)～9 月 18 日(日) 84 日間
- 会場：アーツ前橋ギャラリー1
- 開館時間：11:00～19:00(入場は 18:30 まで)
- 休館日：水曜日
- 観覧料：無料
- 主な出品作家：石内都、木暮伸也、高橋恒雄ほか
- 関連イベント：8 月 18 日(土) こどもアート探検
- ギャラリーツアー：7 月 7 日(土) 14:00～14:30
8 月 25 日(土) 14:00～14:30

● 主な出品作品



高橋恒雄
《お蚕様》
1971



石内都
《絹の夢 #6 桐生 2011》
2014



木暮伸也
《景織 001》
2011



黒田六造
《空襲の翌朝(前橋)》
1987

横浜美術館コレクション

昭和の肖像 ―写真でたどる「昭和」の人と歴史―

展覧会の概要

『昭和の肖像』では、横浜美術館の豊富な写真コレクションの中から 300 点を超える作品を一挙公開します。

60 余年の長きにわたった「昭和」(1926～1989) という時代。関東大震災からの復興、第 2 次世界大戦、敗戦からの再びの復興、高度経済成長を経てバブル期へと続く、日本の歴史において最長、かつ最も大きく揺れ動いたこの時代は、無数の写真によってその「イメージ」が今日に伝えられています。

本展では、第 1 章「人物：時代を彩った顔」と、第 2 章「時代と風景・風俗」の 2 部構成により、昭和を生きた著名人たちのポートレート、そして昭和という時代そのものを映し出した風景・風俗写真を通して、今日の日本の社会構造と生活環境の基礎を形づくったこの「激動の時代」を振り返ります。

横浜は、幕末に西欧からもたらされた写真技術の普及の拠点として、日本の写真草創期において極めて重要な役割を担った場所です。その地に設立された横浜美術館は、多岐にわたる芸術分野のうち特に「写真」を大きな柱に位置づけて収集活動をおこなっています。本展は、2017 年 1 月 4 日～2 月 28 日まで横浜美術館で開催した同名のコレクション展を、一部拡大して巡回開催するものです。

□会 期：2018 年 7 月 6 日（金）～9 月 3 日（月） 開館日数：52 日

□開館時間：11 時～19 時

□休 館 日：毎週水曜日

□会 場：アーツ前橋 地下ギャラリー

□観 覧 料：一般 500 円、学生・65 歳以上・団体（10 名以上）300 円、高校生以下無料
障害者手帳等をお持ちの方と介護者 1 名は無料

※夏休みキッズフェスタ 2018 開催の 8/18（土）とワールドフォトグラフィーデーの 8/19（日）は観覧無料（予定）

※以下の条件でご来館の方は、300 円

トワイライト割：17 時以降に来館された方

猛暑割：最高気温 35 度以上の日にご来場された方

家族割：中学生以下のお子様をお連れの保護者の方

□主 催：アーツ前橋

□特別協力：横浜美術館

□出品点数：300 点程度

□出品作家：木村伊兵衛、土門拳、秋山庄太郎、渋谷龍吉、福田勝治、藤本四八、堀不佐夫、安藤不二夫、濱谷浩、林忠彦、師岡宏次、土田ヒロミ、奥村康宏、常盤とよ子、浜口タカシ、緑川洋一、アンリ＝カルティエ・ブレッソン、ロバート・キャパ、中平卓馬、石内都、荒木経惟、金村修、森村泰昌 ほか

□関連イベント：

① 学芸員によるギャラリートัวร์

日時：7月14日（土）14:00～14:30

8月11日（土）14:00～14:30

集合場所：アーツ前橋1階総合案内前

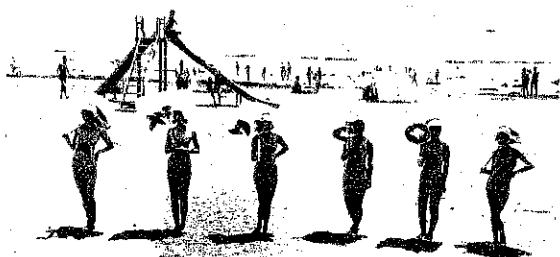
参加費：無料

※その他の関連イベントに関しては、調整中。

□主な出品作品



渋谷龍吉《銀座フォトモンタージュ》1930年代



桑原 甲子雄《カマクラ海岸》1934（昭和 9）年



林忠彦《煙草をくゆらす戦災孤児、上野》1946(昭和 21)年

館の共通目標	開館5年目の節目を迎え、利用者をさらに拡充し、芸術にしか創り出せない深い経験を地域に深く浸透させていくことを目指す。	
細事業別目標 【文化支援／普及事業】	引き続き実施内容の効果的な発信の仕方を工夫し、外部の連携組織との円滑な事業実施を目指す。	
事業名称	滞在制作(海外)	滞在制作(群馬県ゆかり)
時期・日数	(1)2018年6月～8月頃 60日程度	(1)2018年9月～10月頃 30日程度
	(2)2018年11月～2019年1月頃 60日程度	(2)2019年2月～3月頃 30日程度
場所	堅町スタジオほか	堅町スタジオほか
学芸担当者	五十嵐	五十嵐
記入日	2018/3/23	2018/3/23
〔目的・目標〕 ・何をやりたいか。 ・ビジョン、波及効果 ・質的(定性)目標	多様な国や地域で活動するアーティストを地域に紹介し、創作活動を支援。また、海外のアーティストの目を通して地域資源の発掘につなげる。前橋で制作された作品が海外で発表される。地域の作家や住民との長期的な関係性を構築する。	作家の創作活動支援。市内・県内での活躍の場を広げることを目指す。東京などの人口集積地や、自分に地縁のある場所だけにとどまらない発表の場の創出とそのネットワークの形成を目指す。
〔②内容・活動〕 事業の概要	国内外で活躍する外国人作家を招聘し、滞在制作活動を行なう。	群馬県にゆかりのある作家に対し、地元での制作環境を支援するため、滞在制作を行なう。
主な取り組み ・広報戦略 ・新たな試み	アジアを中心とした地域のアーティストを招聘し、地域の外国人との交流を生む。	年齢の枠を設け、若手の支援も行う。演劇などの美術以外の多様なジャンルの受け入れを行う。
〔③結果〕 数値目標		
指標1	招聘アーティスト数 2組	招聘アーティスト数 2組
指標2	イベント回数 2回	イベント回数 2回
指標3	参加者数 200名	参加者数 200名
〔④成果〕 期待に対する結果 ・観覧者層のターゲット ・ねらい	ターゲット:近隣住民、市内。 ①地域資源の発掘 ②海外での発信 ③多文化交流の機会創出	ターゲット:近隣住民、県内 ①幅広い表現者の紹介 ②館外活動により、幅広い層への活動紹介
特記事項 ・助成 ・委員会形式	助成:文化庁アーティスト・イン・レジデンス活動支援を通じた国際文化交流促進事業	

■備考

定員設定の無いイベントは含まない

H30年度 群馬県ゆかりのアーティストによる滞在制作事業

■2018年度 公募概要

前橋市で滞在制作（アーティストインレジデンス）を行う、群馬県にゆかりのあるアーティストを募集。地元での作品制作に必要な制作空間と時間を提供し、招聘されたアーティストは、滞在制作の成果発表として最低1回のパブリックプログラム（展示、トーク、ワークショップなど形式は問わない）を開催する。アーティストの育成や地域における文化芸術の振興を目指す。2017年度より、より充実した滞在制作の機会を提供するため、滞在期間を長く設定、また、若いアーティストにも滞在制作の機会を与えるために、下記の2つのプログラムでアーティストを公募する。

プログラム A

群馬県にゆかりがあり、30歳以下のアーティスト ※ 1988年4月2日以降に生まれた方。 ※ グループの場合も全員が1988年4月2日以降に生まれた方とする。

プログラム B

年齢制限なく、群馬県にゆかりのあるアーティスト

30歳以下のアーティストについては、プログラム A、B 両方に応募することも可能。

■応募受付期間

2018年2月23日（金）～3月31日（土）※当日消印有効

■招聘人数

プログラム A、B ともに各1名、又は1組

■招聘時期

プログラム A：2018年9月1日（土）～10月31日（水）の期間

プログラム B：2019年2月1日（金）～3月31日（日）の期間

※ 両プログラムとも、最低30日以上滞在与とする。

■ 応募対象分野（プログラム A、B 共通）

両プログラムとも、群馬県にゆかりのあるアーティストであれば、表現の分野は問わない。（アート、ダンス、音楽、映像、工芸、詩など）

■審査員

岡部あおみ（美術評論家／パリ日本文化会館展示部門アーティストディレクター）、
白川昌生（アーティスト）、田中龍也（群馬県立近代美術館 学芸員）、住友文彦

■活動費

200,000 円

